

『ゆっくりズムのまち桐生』の着実な実現について（改訂継続）

『ゆっくりズムのまち桐生』の活動について、以下の理由により桐生市自らの研究と、市民への定着と実践を求める呼びかけをお願いします。

「ゆっくりズムのまち」は、桐生市ホームページでは「スローモビリティとスローライフのまち」と定義されています。ゆっくりズムのまちづくりを提唱した故宝田恭之群馬大学教授は、長年にわたり持続可能な人間社会を実現するために必要なバイオマスの活用等を研究テーマとして取り組んでこられた方であることは、多くの方が周知のことです。先生のレポートによると、その発案の元は、「成長の限界・人類の選択」にあるとされています。この本は、1970年代に発行された、ローマクラブによる「人類の危機レポート 成長の限界」にたどり着きますが、このレポートは、地球資源を使いつくし、汚染物質をまき散らす人間の社会活動に対して、人類が地球での生活を持続できるようにするための警鐘を鳴らしたもので、その20年後に「成長の限界・限界を超えて」が発行され、相変わらず地球の破壊を進める人類への警鐘が鳴らされました。そして、その10年後に待ったなしの現実を突きつけたのが、先生が取り上げた「成長の限界・人類の選択」です。現在は、そのさらに20年後ですが、人類は相変わらず地球環境の破壊を続けながら経済優先の活動を繰り広げており、本書に書かれた危機的状況が刻々と悪化していることが解ります。現在の日本人の生活は、地球2.7個分の負荷を与えるものであり、宝田先生がゆっくりズムを提言した意味は、価値観の転換により、エネルギーや資源の消費を抑えた地球1個分の生活ができ、且つ幸福感を失わない持続可能な地域を創ることを目指したものと理解できます。

つまり、『ゆっくりズムのまち桐生』づくりは、桐生市ができるだけ取り組む課題ではなく、将来にわたり持続可能な生き残り都市を目指すのであれば、取り組み必須、実現必達の課題であり、それは桐生市民一人ひとりが取り組まないと実現ができないテーマであるということなのです。

現在、桐生市の環境先進都市将来構想推進協議会に設置されたワーキンググループでの協議が始まっていますが、桐生市としても世界的な食糧、エネルギー危機、災害の発生などに対してレジリエントな桐生市を構築するために『ゆっくりズムのまち』についての研究と実現を目指すことを求めます。

桐生市からの回答

「ゆっくりズムのまち桐生」の啓発に向けた取組につきましては、桐生市環境先進都市将来構想推進協議会ワーキンググループにおいて、まずはすぐに手を付けられることからということで、令和5年度は「市花サルビアを中心に花や緑を楽しむことができるまちづくり」と「歴史的文化的資源・川や水路などを歩いて楽しむことができるまちづくり」の2つの方向性に焦点を当て、サルビアを植栽する取組を開始するとともに、地域資源を発見・再認識するためのウォーキングイベントなどを実施する方向で検討しています。

また、本市の「ゆっくりズムのまち 桐生」をテーマとした提案書が評価され、令和5

年5月22日に内閣府から「SDGs未来都市」に選定されましたので、歴史、文化、自然環境等、多様な地域特性や地域資源、大学などの様々なつながりを活かし、先端技術とゆとりを持ったライフスタイルの融合により、「ゆっくりズムのまちづくり」を進め、地域課題の解決や持続可能な未来社会の確立を目指してまいります。

さらには、現在策定作業を進めております「桐生市交通ビジョン」においても、「ゆっくりズム」の理念を取り入れ、その象徴であるMAYUに代表されるグリーンスローモビリティなどの活用を図りながら、SDGsの推進に寄与する交通まちづくりに取り組もうとしているところです。

いずれにいたしましても、「ゆっくりズム」に関する更なる研究を進めながら、様々な機会を捉えて市民への啓発を行い、価値観の転換や行動変容を促してまいりたいと考えております。

〔回答担当〕 市民生活部環境課環境都市推進担当